

市民公開イベント 金沢大学子どもこころの発達研究センター

## シンポジウム

# 「学校×サイエンスの新展開」

**対象：学校教育の在り方に関心のある方**

3月20日（水・祝）14:40-16:40

石川県立図書館 2F 研修室

事前申し込み不要



NHKスペシャル「“学校”のみらい」出演

**島谷 千春** 加賀市教育委員会 教育長

発達障害の可能性のある子ども、特異な才能がある子ども、家庭の支援が得られない子ども、外国につながる子どもなど、様々な背景をもつ子どもたちが一堂に会し、混在する現代の学校の教室。そして、増加が止まらない不登校30万人時代。10人に1人以上が不登校・不登校傾向であり、今の学校教育システムに子どもが拒否しているような状況。そんな子どもたちが何よりも長く過ごすのは授業の時間。当たり前のように続いてきた教師からの一方向の「みんな一緒に同じことを同じペースで」の一斉型授業は、本当に子どもたちを救えているのか。この事実と真正面から向き合い、誰一人取り残さない授業／子どもが主役の学びへの転換を目指している加賀市の小中学校の様子をお話します。



**池端 弘久** 元金沢市立中央小学校校長

学校教育現場と研究現場の協働の可能性を開く鍵は、双方が互いの現場の現状や築いてきた現場の文化を理解することだと思う。学校現場と研究現場が、互いの「協働の文化」を尊重し理解することから事は始まると考える。

裏へ続く！





**合田 徳夫** 株式会社日立製作所 主任技師  
加速度センサで取得した体の揺れのデータから、人と人が影響しあっているかどうかを推測することが出来ます。その原理を利用し、人と人のコミュニケーションを計測できるスマホアプリを開発しました。このスマホアプリを用いることで、教育現場や芸術活動などにおけるコミュニケーションの状態や変化を分析及び可視化しています。



**田中 早苗** 金沢大学 特任助教  
2つの自治体の協力のもと、小中学校でのソーシャルスキルトレーニング実施およびその効果検証を行った。倫理的、法的、社会的問題（ELSI）の観点から本研究を振り返り、参加の強制とならずに必要なところに必要な学びの機会を提供するための研究実施のあり方について整理したい。



**吉村 優子** 金沢大学 准教授  
加賀市と連携しすすめてきた、子どもたちの個性と好奇心を尊重する教育システムを紹介する。学校での身体活動量や心拍数のデータを収集し、これを活用して心の健康や学習効果を向上させる方法を探求している。また、データ収集に際しては、倫理的、法的、社会的問題を考慮し、慎重に進める必要がある。



指定討論者：

**原 朔** 東北大学大学院 文学研究科 准教授